

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

個に応じた「確かな学力」の定着と、「豊かな心」をはぐくみ、将来を「生き抜く力」を身に付けさせることによって、地域や保護者から信頼される学校をめざす。

1. 地域や生徒の実情を踏まえ総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動を展開し、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な学力の定着を図る。
2. 他人を思いやる心や自然や美への感性など「豊かな心」をはぐくみ、規範意識と自律心を身に付けた生徒を育てる。
3. 教職員が一丸となって『学校力』を高めあい、生徒に「生き抜く力」を身に付けさせる。

## 2 中期的目標

## 1 学力（基礎基本的な知識・技能、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力）の確実な定着に向けて

(1) 生徒一人ひとりの学力を把握し、総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動を通じ、学力「基礎基本的な知識・技能、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」の定着を図る。

- ア 生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、生徒の「学ぼうとする意欲」を高め、基礎的・基本的な知識・技能・教養を定着させる。
- イ 生徒支援の視点から、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有することで、きめ細かな指導を行うとともに、学校教育活全般を通じ、生徒の「学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」を定着させる。
- ウ 生徒の実態に即した授業の改善とともに魅力を向上し、卒業率の向上を図る。

(2) 生き生きとした活力ある学校組織と魅力ある授業をめざして

- ア 教員としての全般的な力量を高めるため、また活力ある学校組織の推進のため、本校伝統の協働の姿勢を重視した学校運営を行うとともに効果的な職員研修を実施し、あわせて教員の働き方改革についても推進する。
- イ 魅力ある授業を推進するため、ICT機器の活用を推進するとともに、29年度から取り組んでいる「主体的・対話的で深い学びの実現」のための授業の取組みについても推進し、31年度には全教科で取り組み、生徒の授業満足度 80%以上を定着させる。

## 2 「豊かな心」と規範意識を身に付けた生徒を育てる

(1) 規律・規範のある学校環境をつくり、様々な活動を通して、豊かな心と自律心をはぐくむ取組みを推進する。

- ア 生徒の自主性を育てる取組みを実践するとともに、地域への奉仕活動ができる学校をめざす。
- イ 多様な学校行事や系統的な教育プログラムを通じ、質の高い生徒の集団づくりを行うとともに、生徒・保護者の学校満足度 90%以上を維持する。
- ウ 規律・規範のある学校環境をつくり、社会ルールを順守する姿勢を育成するため、予防的・開発的生徒指導をすすめ、生徒の自律心をはぐくむ。

(2) キャリア教育、人権教育の推進

- ア 3カ年を見通した進路指導計画に基づき、在校生の就労率や就労体験率を向上し、卒業時の進路決定率 100%（就職は就労率）をめざす。
- イ 教員のキャリアカウンセリング力を向上させるための研修や外部人材の活用を推進する。
- ウ 互いを認め合える人権教育を実施し、差別や偏見を許さない態度を育てる。

## 3 生徒支援を軸にした学校づくり

(1) 生徒支援

- ア 生徒支援カードやケース会議を活用するとともに、職員研修を通じて教員の生徒支援力を向上させ、個々の生徒に応じた支援を組織的に実践する。
- イ 生徒の「居場所づくり」をすすめ教育相談活動と生徒支援の取組みの充実をはかるとともに、成果を認め長所を伸ばす教育活動を推進する。
- ウ 教員の生徒との会話をより高め、生徒が信頼し相談しやすい安心できる学校づくりを推進するため、支援教育やコミュニケーション力を高める校内研修や外部人材を活用した研修等を推進する。
- エ 上記の実践を通じて、中途退学や不登校の減少に取り組み、2020年度には中退率 20%以下、新入生の登校率 80%以上を達成する。

(2) 安全・安心な学校づくり

- ア 定時制の現状に即した防災教育を研究し実践する。
- イ 26年度から始まった大規模工事の中で、生徒の安全・安心に配慮した施設の点検や改善を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1) 生徒：「学校満足度」98%と極めて高い。授業に関しては「教員の指導の満足度」89.8%、「教科、内容等の満足度」77.6%である。 【分析】学校満足度の高さは学校行事や生徒指導などが評価されている結果である。教員の授業力や科目指導内容に関する研究や改善を継続していく。</p> <p>2) 生徒：人権教育、防災については概ね 90%以上の肯定的回答。 【分析】生徒の状況を把握した取組みができていた。防災については引続き研究。</p> <p>3) 生徒：「悩みを相談できる先生がいる」85.7%の生徒が肯定的な回答。 【分析】生徒指導を含め、教員の信頼度の高さはみられるが、より高い信頼度を得るための研修や組織の在り方等を工夫・継続していく。</p> <p>4) 生徒：「有職生徒」67.3%、「仕事等に力を入れている」59.2%であった。何もしてない生徒が 16.3%、その他も 16.3%いる。 【分析】不登校や退学の原因・理由の大半が仕事優先であることから、一人ひとりの学業と仕事等の状況を把握し適切な指導を行う必要がある。また、入学生が不登校経験や対人関係が苦手などで就労への意欲が高くない。計画的にキャリア指導、体験活動の推進、キャリアカウンセリング等を行う必要がある。</p> <p>5) 保護者：「学校への満足度」肯定的回答 88.9%と高い。</p>	<p>6月15日 ○生徒減少についての学校の手立てについて。 ・現在取り組んでいる教育活動や行事についてHP等での発信は良い。今後も引き続き更新し、広報の充実をおこなってほしい。</p> <p>11月8日 ○生徒減少に対する学校の手立てについては、引き続き取組みを。 ○平成30年度学校経営計画の進捗状況について。 ・大学生ボランティアの活用開始。保健室サポーター活用の継続。本年度より学校予算でSSWの雇用については、より一層の活用の要望。 ・授業アンケート結果について。授業満足度が高く、今後もより一層の取組みを期待したい。 ○情報発信を強化するための方策を検討いただきたいとの意見。</p> <p>2月7日 ○学校教育自己診断結果について ・生徒の「入学してよかったと思う」の項目が肯定率 98%と非常に高い。これを学校HPなどで対外的にもっとPRしても良いのではないかと。 ・「産社」「総合」の授業では生徒満足度向上に向けて、外部人材のより一層の活用等に工夫を。 ・保護者アンケートの回収率を高める工夫が必要。教員分も回収率 100%にする必要がある。</p>

## 府立成城高等学校 定時制の課程

<p>【分析】学校の取組みをHPやPTA総会で発信し評価されているが、回答数が9人(約15%)と少ないので、行事・懇談等を利用してひろく意見を集める必要がある。</p>	<p>○平成31年度学校経営計画について ・定時制部会については全会一致で承認。</p>
--	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔29年度数値〕	自己評価
1 基礎的・基本的な学習の確実な定着	<p>(1)個に応じた学力の定着 ア 基本科目の検証、改善、進級率の向上 イ 興味関心を持たせる授業や特別活動の研究と推進 ウ 授業内容教育課程教科・科目の再編成 (2)生徒のやる気を高め、活力と魅力ある授業づくりの推進 ア 教員力の向上と働き方改革 イ 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業の推進と授業でのICT機器活用</p>	<p>(1) ア 学力診断テストを実施し、基礎・基本的の内容の指導の改善を図る。首席、教務を中心に定期的な教科・学年会を実施し、新入生進級率を向上する。 イ 基礎的・基本的な知識・教養の習得のための教材をリニューアルし実践する。外部機関や専門的講師と連携した「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」等の多彩な授業を推進し、学習活動への興味関心を高める。 ウ 不登校経験生徒の増加、学校小規模化の実態を踏まえ、学校の将来像を考えた教育課程、科目等を検討していき、魅力ある学校づくりを推進する。 (2) ア 経験年数の少ない教員が増えているため、多彩な研修を実施するとともに大学教授等を招聘しての研究授業を実施し、授業力向上させる。また会議や教材作成等の効率化に取り組む。 イ 平成29年度からの主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業(AL)の取組みを推進する。また、ICT活用授業指導案の共有化を図り、生徒の授業満足度を向上させる。</p>	<p>(1) ア 学力診断テスト報告会実施。授業アンケート肯定率80%以上を維持〔83%〕 新入生進級率80%を維持〔80%〕 イ 一年次の授業満足度85%以上を維持〔90%〕 外部機関等との連携授業数9件と「産社」「総合」の授業満足度75%以上〔9件、71%〕。 ウ 生徒のニーズを把握し、教育課程、教科、科目を再編整備する。検討のための会議を定期的に開催する。〔3回〕 (2) ア 研修回数24回〔24回〕。研究授業年2回以上実施する。〔2回〕 ICTを活用し教材や会議資料の共有化を推進。実施教員率60%以上。〔新規〕 イ ALとICT活用の研究授業の実施回数3回〔2回〕。ICTを活用した授業の生徒の満足度90%以上を維持する〔93%〕。</p>	<p>(1)ア 本校独自の学力診断テストを2～4年4/10、1年4/26に実施。5/25ケース会議で報告。授業アンケート肯定率82%(○)。新入生進級率72%(△) イ 1年次の授業満足度は約100%(12月実施分)(◎)。外部機関との連携講座は11件(電話対応、着こなし、保育実習、障がい者スポーツ、人権、性教育、防災、進路関係)(◎) 「産社」「総合」授業満足度61.2%(△) ウ 1年は4月、2・3年は12月に進路希望調査。今年からビジネスPC講座を週2回、ドローン授業などの導入。新教育課程の校内研修を11月に実施、検討会議3回(○) (2)ア 24回実施。7月・1月に研究授業週間。初任期教員による研修5回実施。公開研究授業は12/7実施(○) ICT活用ほぼ全員可能で常時活用60%(○) イ AL取組みとして学習会を11月に実施。タブレットを活用する教員は11名。全教員が映像機器、ICTを活用。(○) 生徒の授業満足度86%(△)</p>
2 豊かな心と規範意識を身に付けた生徒の育成	<p>(1) 学校生活の充実 ア 生徒会活動の充実と地域貢献 イ 特別活動の充実 ウ 規範意識の醸成と感性を高める取組み エ 生徒指導法の工夫 (2) キャリア教育、人権教育の推進 ア 進路指導体制の構築 イ 教員のキャリアカウンセリング力の向上 ウ 互いを認め合える人権教育と保健教育の推進</p>	<p>(1) ア 体育祭、文化祭を生徒会中心に盛り上げる。生徒参加の地域清掃を2回、あいさつ週間を3回計3週間実施する。また生徒会等による学校活動の情報発信を活性化させ、生徒の学校満足度を高める。 イ 豊かな心をはぐくみ、学校生活を充実したものにするため、部活動体験入部などの取組みを行う。夏季休業中等に読書Dayを設けるなど、学校へ登校の機会を設ける。 ウ 「規範意識を持たせるためのLHR」実施し、規範意識の向上を図る。 エ 予防的・開発的生徒指導を重視し、教職員一同で生徒の自律心を高める生活指導を推進する。スマホ指導に取り組むこととで、授業規律と学習の雰囲気改善する。 (2) ア 体系的な進路指導計画により、学年学期毎にキャリア教育に関係するLHR等を行う。職業体験や社会体験を実施、アルバイト等の就労を促進することで全校就労率の向上と勤労観をはぐくむ。 イ 支援教育やコミュニケーション力を高める校内研修や外部人材を活用した研修等を推進する。 ウ 良好な人間関係や集団づくりのため、本校生に有効な人権HRや保健教育を各2回実施する。</p>	<p>(1) ア 行事の生徒満足度90%〔89%〕。 地域清掃、あいさつ運動の実施回数。〔2回、3回〕 生徒会新聞の発行 年2回〔1回〕。 イ 活動部活動数と入部率12、60%〔12、57%〕 長期休業期間中の図書館開館回数 2回〔2回〕 ウ HR実施時間16時間〔16時間〕 生徒指導の肯定率80%以上を維持〔86%〕。 エ 停学者過去5年平均の4人以下〔2人〕。 生徒の参画による啓発活動を企画し実施する。〔0回〕 (2) ア 就労率を75%〔74.6%〕。職業・社会体験等10人以上〔15人〕、教員の企業訪問件数27件以上〔27件〕。 就職内定率80%〔80%〕。 イ 教員の教育相談・キャリア相談の能力向上に関する研修を2回以上実施する。〔新規〕 ウ 人権教育と保健指導の取り組み、回数各2回〔2、3回〕、生徒と教職員の肯定率85%以上〔84%、100%〕。</p>	<p>(1) ア 地域清掃7/20、12/21実施。あいさつ運動4月・8月末と12月の3回実施(○) 生徒会新聞4号発行(◎)。行事の生徒満足度85.7%(△) 8月に城東祭りボランティア参加(◎) イ 部活動活動数13。今年からテコンドー同好会、フィールドワーク(FW)同好会立ち上げ。FW同好会は大阪城公園で外国人にインタビュー実施。入部率60%(◎)。夏季・冬季休業中の図書館開館8日。利用数延べ9名。(○) ウ 4月に1年次に実施。学年集会で携帯電話、規範意識について指導。授業における約束事を全教員が年度当初に周知。HR実施時間数は16時間(○) 生徒指導の肯定度は85.7%(○) エ 停学者2件(2名)(◎) 全校集会での携帯指導、教員による校舎巡回での声掛けの実施(○)生徒参画の啓発活動は薬物防止講演会で実施。生徒会による授業規律遵守ポスターの作成(◎) ア 3月時点での就労率は75%、職業・社会体験等については16人(○)。企業訪問(30社)実施(○)。就職内定率100%(◎) イ VRTカード研修2回実施(◎) ウ 人権教育2回、保健指導3回実施(○) 生徒と教職員の肯定率73.5%、83.3%(△)</p>

## 府立成城高等学校 定時制の課程

<p>3 生徒支援を軸にした学校づくり</p>	<p>(1) 生徒支援 ア 個別の生徒支援の取り組みと効果的な生徒指導の充実 イ 承認行為と長所を伸ばす取り組み ウ 居場所づくりをすすめる、不登校及び退学者の減少 エ 食育指導の実施 オ 生徒との会話をより高める取り組み (2) 安全安心な学校づくり ア 防災・安全教育 イ 工事対応</p>	<p>(1) ア 本校独自の生徒支援カードを活用し学校全体での支援情報会議を年3回開催する。また、ケース会議を開催し、効果的な生徒支援に取り組む。 イ 29年度実施の校内検定や資格制度等の取り組みを推進し、表彰を行う。履歴書に書ける各種検定等の受検を勧め、生徒の長所を伸ばす取り組みを推進する。 ウ 高校生活になじめない新入生対策等を中心として保健室等での相談活動を充実させるなど、居場所づくりを推進する。また中高連携の取り組みを推進し、新入生の登校率を向上させる。 エ 生徒の健康維持の啓発教育を実施するため、食育の指導を行う。 オ 教員の生徒との会話をより高め、生徒が信頼し相談しやすい安心できる学校づくりを推進する。 (2) ア 「生命を守る」防災・安全HRの実施。 イ 大規模工事の中で、教員と行政が連携し生徒の安全対策と指導を行う。</p>	<p>(1) ア 支援情報会議、ケース会議の実施回数と教職員の肯定率3回、100%〔3回、90%〕。 イ 検定等の取り組み数3件、検定受検数5人。〔1、0人〕。成城漢字検定(校内検定)の実施2回〔1回〕 ウ 教育相談の生徒肯定率85%以上〔89.8%〕。入学生登校率80%〔74%〕。本校独自の保健室サポーターの活用。退学者数前年比20%減〔10%減〕。 エ 保健・食育指導の啓発活動を4回、授業・HRを年2回実施する〔4、2回〕 オ 外部人材等を活用した研修の実施や外部研修への参加回数3回〔新規〕 (2) ア 現状に即したHRを2回実施。肯定率95%〔2回、93%〕。 イ 仮設棟、北館付近での安全点検と指導3回実施する。〔1回〕</p>	<p>(1) ア 支援(ケース)会議3回実施(○) 各学年による教科担当者会議、学年間の連絡会議を随時実施(○) 肯定率83%(△) イ PC検定等の補習を計画実施(○) だが検定受験数0名。校内漢字検定を2回実施(○) 受検数延べ40名(◎) ウ 肯定率85.7%(○)。入学生登校率80%(○)。保健室サポーターの活動(4~7月)、独自予算でSSWの雇用15h。大学生ボランティアの活用開始11月から2人(◎) 退学者数9人。前年比±0%(△) エ 食育指導については、授業を中心に実施。食育だよりを発行しHRで指導(○) オ NPO活用し教職員向け2回実施(○) 夏期に3日間の外部研修へ派遣等3回 (2)ア 交通安全6/8、避難訓練防災教育10/26実施(○)。肯定率89.8%(△) イ 教職員がLED懐中電灯を所持して毎日巡回と工事現場の注意指導(○)。</p>
-------------------------	---	---	---	---